



## フェローシップ・ニュース No.133



# DARC ダルク創立40周年記念フォーラム ダルクのこれから～原点と未来に向けて～

2025年10月27日、東京・浅草公会堂にて、全国65のダルクが共催する「ダルク創立40周年記念フォーラム～原点と未来に向けて～」が開催されました。全国のダルクの仲間や支援者が集まり、これまでの40年の歩みを振り返りながら、依存症回復支援の今後について語り合う貴重な一日となりました。

これまでダルクが果たしてきた役割を振り返りながら、今後の方向性について活発な意見交換が行われました。壇上では、各ダルクの代表によるスピーチや、ダルク創設者・故・近藤恒夫への追悼の言葉が述べられ、温かく希望に満ちた雰囲気になりました。

このフォーラムの準備のため、全国のダルク職員が月に一度集まり、日程調整、会場予約、進行、役割分担などを綿密に話し合ってきました。全国の仲間が心を一つにして作り上げた催しとなりました。

午前の部は、栃木ダルク代表・栗坪千明さんの司会により進行。法務省・厚労省からの来賓挨拶がありました。また、松本俊彦先生の来賓挨拶では近藤さんとの思い出を「雑談する中で謎めいたことをよく言い、最初はよくわからなかったけど時間が経って、あれはこういう意味だったんだとわかってきた。」と語っていました。

次に、近藤恒夫への追悼メッセージとして、こころの相談所リカバリーの吉岡隆さん、映像ディレクターの中沢一郎さん、山梨ダルクの佐々木広さんがそれぞれ思い出を語りました。

中沢さんは近藤さんの映像を残したいとドキュメンタリー映画を制作するためクラウドファンディングを立ち上げ、2027年2月27日に公開したいと皆さんへの協力を求めています。佐々木さんは「近藤さんがいなくなって『寂しい』ではなく、『つまらないなあ～』」という気持ちを吐露していました。



松本俊彦先生



佐々木広



吉岡隆さん



中沢一郎さん



浅草公会堂

特定非営利活動法人  
アジア太平洋地域  
アディクション研究所

発行日  
2025年11月1日

APARIとは、アジア太平洋地域アディクション研究所 (Asia-Pacific Addiction Research Institute) の略称です。

全国のDARCやMAC等の社会復帰施設、福祉・教育・医療・司法機関と連携しながら、依存症から回復しようとする方々を支援しているシンクタンクです。

### 目次：

ダルク創立40周年記念フォーラム・・・志立玲子	1
コラム 心のつぶやき 日記(14)・・・野呂岳央	4
支援につなげる弁護術(31)・・・高橋洋平 近藤恒夫の新刊のご紹介	5
藤岡ダルク入寮者からのメッセージ・・・ビリー	6
第24回DARSのご案内 AREA軽井沢より献品 のお願い・・・針木	7
司法サポートのご案内 家族教室スケジュール	8



続いて「草創期メンバーによるマイクリレー」では、どのように各自がダルクを立ち上げていったか、その経緯や近藤さんとの懐かしいエピソードを交えながら楽しい雰囲気にも包まれました。五十畑さんからは「横浜刑務所に25年間通い続け、なんと…秋の褒章をいただけることになりました！」との報告があり、「これを近藤恒夫に捧げたいと思います」と語っていました。

午後の幕開けは、藤岡ダルクによる迫力ある琉球太鼓の演舞で始まり、40周年を飾るにふさわしい感動的なものになりました。ダルクを卒業した仲間も参加していました。

午後の司会は木津川ダルク代表・加藤武士さんが務め、「ダルクにゆかりのある支援者によるマイクリレー」が行われました。近藤さんに連れて行かれたご飯（お寿司、焼肉、天丼など）のエピソードが多く、笑いに包まれました。嶋根さんからは、近藤さんとフィリピンに行って貧困層の地域を見に行ったことなど、それぞれが近藤さんとの思い出やダルクとの関わりを語り、多くの方の胸に響く場面が続きました。ダルクの原点と理念を再確認する時間にもなりました。

次に「ダルクのこれから」と題して、次世代を担う若手スタッフたちが登壇し、未来への決意を語りました。

最後に実行委員長である茨城ダルク代表の岩井喜代仁さんが挨拶し、40年の歴史を支えた仲間たちへの感謝と、これからの若い人への期待を語り、締めくくりました。

全国から集まった仲間たちとの再会や新たな出会いを通じ、「つながりの大切さ」と「回復の力」を改めて実感する一日となりました。創立から40年を迎えたダルク。これからも「苦しむ仲間に寄り添い続ける」という変わらぬ理念を胸に、時代に合わせて変化しながら、一人ひとりが回復への道を歩み続けていきます。

ロビーには、ロイ神父や、近藤さんの懐かしい写真。天に召されたダルクの責任者たちの写真が飾られている展示コーナーもありました。

また、ダルク関連の書籍販売やダルク女性ハウスによる手作り商品の販売、マーシーこと田代まさしさんの書籍販売とサイン会、写真撮影会も行われました。この日に発売となった、近藤恒夫の新刊『失敗の人生なんてないのだから…』も並び、多くの来場者が手に取っていました。

## 午前のプログラム

10:00 来賓者挨拶

法務省保護局観察課長 勝田 聡 様

厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害

保健課 依存症対策推進室室長 米田 隆史 様

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター

精神保健研究所 薬物依存研究部 部長

薬物依存症センター センター長 松本 俊彦 様

10:40 創設者 近藤恒夫さんへのメッセージ

山梨ダルク 代表 佐々木 広

こころの相談所 リカバリー 吉岡 隆 様

映像ディレクター 中沢 一郎 様

11:00 ダルク草創期のメンバーによるマイクリレー

日本ダルク神奈川 五十畑 修

フリーダム 倉田 めば

上野ダルク 三浦 陽二

ダルク女性ハウス 上岡 陽江

12:00 終了



藤岡ダルクのエイサー



展示コーナー 懐かしい写真がたくさん飾ってありました。



マーシーの新刊本の販売。購入した方にはサインと記念撮影付きでした。



ダルク草創期のメンバー  
左から三浦陽二、五十畑修、倉田めば、上岡陽江



## 午後のプログラム

13:30 琉球太鼓 藤岡ダルク

14:00 ダルクにゆかりのある支援者の方々のマイクリレー

雷門メンタルクリニック 院長	伊波 真理雄 様
医療法人東北会 東北会病院 院長	石川 達 様
医療法人横田会 光陽台病院 院長	比江島 誠人 様
国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター	
薬物依存研究部 心理社会研究室室長	嶋根 卓也 様
認定NPO法人ジャパンマック 副理事長	荒木 龍彦 様

15:15 「ダルクのこれから」ダルクスタッフによるマイクリレー  
 鶴岡ダルク 武田晋輔、ダルク女性シェルター 不動めぐみ  
 ダルク女性ハウス 五十公野理恵子、相模原ダルク 田中秀泰  
 三河ダルク 高橋洋三、京都ダルク 出原和弘  
 佐賀ダルク 松尾周、沖縄ダルク 佐藤和哉

16:30 閉会の挨拶 40周年フォーラム実行委員長 岩井喜代仁  
 17:00 終了



支援者の方々 左から伊波真理雄先生、石川達先生  
比江島誠人先生、嶋根卓也さん、荒木龍彦さん



次世代を担う若手ダルク責任者たち  
 先代から伝えられた言葉に感動したこと。制度を使う  
 中で変化していくダルクにどう対応していくのか。本  
 当の回復のあり方について考えさせられる場面もあっ  
 た。司会の方がダルクのこれからをAIに聞いたところ  
 「次の40年に向け、当事者同士の共助の流儀を維持し  
 つつ、多様な支援を支える連携を強化。依存症への偏  
 見なき社会の実現を目指す。」との回答に笑いと拍手  
 が沸き上がりました。

茨城ダルク代表・岩井喜代仁

今回は回復している仲間に話をしてもらった。40年の変遷を振り返りながら、若い世代も育っていること。今後どのように変えていけるのか期待したい。そしてミーティングと12ステップの大切さを改めて実感した。来場してくれた方々、登壇してくれた仲間にも感謝したいと思いを語りました。



## 懇親会

フォーラム終了後、18時より浅草ビューホテルにおいて懇親会が開かれました。  
 来賓あいさつに参議院議員の塩村あやかさんが登壇されました。

塩村さんは、アルコールやギャンブル依存症には法律が整備されている一方で、薬物依存症に関する法整備が進んでいない現状に触れ、「こうした声を聞き、何ができるかを考えていきたい。議員会館にもぜひ話を聞かせに来てほしい」と力強く語られました。



2019年7月参議院選挙の際、  
四ッ谷駅前の街頭演説に近藤  
とともにかけつけました。



アパリのテーブルには塩村  
さんも…楽しくおしゃべり  
しました！

また、「6年前、参議院選挙の際に、近藤さんとアパリの志立さんと一緒に四ッ谷駅前で街頭演説に応援に来ていただいたことが忘れられません」と振り返り、「お別れ会の時にいただいた近藤さんの写真入りカードは、今も執務室の壁に貼って大切にしています」と温かい言葉を寄せられました。

会食をしながら、ダルクの職員や支援者たちに次々とマイクが向けられ、一言ずつ挨拶する光景が見られました。食事はビュッフェ形式ではなく、テーブルに座ってゆっくり食事を楽しめるようになっていました。美味しい料理と共に、全国から集まった仲間の話が聞けて、とても充実した懇親会となりました。最後に記念撮影をしてお開きとなりました。

(志立玲子)



塩村あやかさん

木津川ダルク  
加藤武士宮古島ダルク  
森 廣樹





就労継続支援B型事業所 Will

就労継続支援B型  
事業所 Will新規利用者  
新規作業  
大々的に募集中!!皆で作った作品を  
販売しました。

清掃作業の様子



清掃作業の様子

## Willのコラム

## 心のつぶやき日記 (14)

施設長 野呂岳央 (タケ)

先日、特定非営利活動法人ASKの「依存症予防教育アドバイザー養成講座」を受講しました。これは、依存症についての「正しい知識」と「回復の実感」、予防に欠かせない「ライフスキル」を伝える人材を育てる講座です。この「ライフスキル」は、私の経験から見ても非常に重要だと感じます。

ここ2か月ほど、身の回りでいろいろと大変なことがあり、私自身も状態の悪い時期を過ごしました。まさにアドバイザー養成講座の時期もそうでした。昔はこうした状況でも無理をして踏ん張れたのですが、最近は気力が続かず、体調やメンタルにも影響が出ます。ただ、それは「弱くなった」のではなく、「自分の限界や状態に気づけるようになったんだ」と捉えています。

若い頃の私は、連日朝から晩まで働き、夜は同僚と飲み歩き、休日仕事か寝て過ごすような生活でした。頑張った感が好きで、頑張ることで自他に認められた気がするので、「自己の価値を維持する」ために欠かせない手段だったのです。今思えば、それは手っ取り早く自分を満たす“ドラッグ”のようなものでした。

それによって心はどんどんすり減り、“穴”となっていきます。無理を無理とも意識せず、感情を押し殺して働くうちに、本当の気持ちは「存在しないもの」になりました。当時の私は、寂しさや虚しさを実感できなかった。本当は「寂しくて虚しくて辛かった」はずなのに、自分のことなのに、全然わからなかったのです。“穴”はどんどん大きくなり空虚さに支配されていきました。

いつも何かで空虚さを埋めようとしていましたが、それは本当に求めていたものではありませんでした。やがて出会った「違法薬物」は、その“穴”にぴったりとはまるものでした。

そして今もなお、その“穴”はしっかりと残っています。だからこそ、健全で健康的なものを生活の中に取り入れることが欠かせません。そうでなければ、必ず、また不健康でモラルに外れたものに吸い寄せられてしまうのです。

私の場合、脱線し始めるとまず「自分のケア」ができなくなります。通院を怠り、趣味をやめ、人付き合いを避け、浪費や過食が増えていく。まさにエネルギーを失っていくような感覚です。

今の私は、その“黄色信号”が点滅している状態です。油絵教室に行けず、スマホゲームにのめり込み、無駄遣いも増えています。それでも「黄色だ」と気づけていれば、慎重に行動し、誰かに相談したり助けを求めたりできます。気づけて行動出来ているうちは、よくよく注意は必要ですが…まだ大丈夫です。

自分にとって大切なのは、深刻にとらえすぎないこと。自分のとらえ方が深刻になればなるほど、状況は悪化していきます。経験から言えるのは、「まあいいか」と少し肩の力を抜くことが、自分を守るコツだということです。そして、自分の中だけで抱えず、誰かに話すこと。話すことで、気づけなかったことに気づき、不思議と心の整理もついていきます。

「黄色信号」に気づいて、深刻になりすぎず、できるところから行動を変えてみる。

そのくらいのペースで生きていくのが、今の私にはちょうどいいと感じています。肩の力を抜きながら、自分の気持ちを見失わないように生きていきたいと思います。



植物をテーマにしたグッズを中心に販売します。ポチ袋、ハガキ、缶バッジ、芝なりねずみ・芝かめさん等ぜひ遊びに来てください!!



## コラム

## 支援につなげる弁護術（31）

理事・嘱託研究員・弁護士 高橋 洋平

ダルク40周年記念フォーラムに参加しました。『ダルク40年おめでとうございます！』

久々に会った方もたくさんいてとても楽しいフォーラムでした。ダルク草創期のレジェンドの話はダルクを知るうえで大変貴重なものであり、また、それぞれの実践経験は依存症にとどまらず、社会にも広がっている印象を受けました。また次の世代を担う若手のダルクスタッフの話も現在直面している課題に触れつつ、真剣に取り組んでいる様子が語られました。

そして、藤岡ダルクのエイサーは何度見ても最高です。ますます彼らのファンを増やしました。「ダルクなんて絶対にいけない」、「エイサーなんて絶対にやらない」と言っていた彼。素敵な笑顔で演舞していました。

ダルクといえば近藤さん。近藤さんを偲ぶ話も多くありました。「人生に失敗なし」私にも近藤さんはよく言ってくれました。また、「究極の支援は添い寝だ」とよく言っていた。そして、なぜか私も近藤さんに添い寝をしてもらうことに・・・！？詳しい話はまた別の機会に。近藤さんとの懐かしい思い出を思い出す機会になりました。

フォーラムの後に開催された懇親会でもたくさんのダルクスタッフからダルクや近藤さんの懐かしい思い出話が語られました。ダルクのよいところは仲間意識でしょうか。そんなダルクに魅了されたたくさんの面々。

参議院議員の塩村あやかさんも参加されていました。せっかくの機会なので、日本の薬物政策の問題を話題にし、依存症に対する差別や偏見が社会的なスティグマとなって問題解決をより困難にしていることや、問題解決のための軸となる薬物依存症対策の基本法がないことなどを話題提供しました。塩村さんは挨拶の場でさっそく基本法について話題にしてくださいましたが、是非とも国会の場でも話題にしていだきたいと願うばかりです。

依存症の問題はまさに社会問題の縮図です。依存症は孤立の病。依存症の問題に真剣に取り組むことは孤立を背景にする多くの社会問題の解決につながるはずです。

ダルクの魅力は、エネルギーあふれる活動はもちろんですが、多くの出会いがあることでしょうか。ダルクに魅了された面々との出会いは人生の糧になること間違いありません。

私としても今後ともダルクの魅力を伝えながら、多くの方々にそのような出会いの場としてのダルクを体感してもらえたらいいなと思っています。

## 近藤恒夫の新刊のご紹介

## 問わず語り「失敗の人生なんて ないのだから・・・」

ー近藤恒夫が病床にて語った物語ー

<目次>

前語り

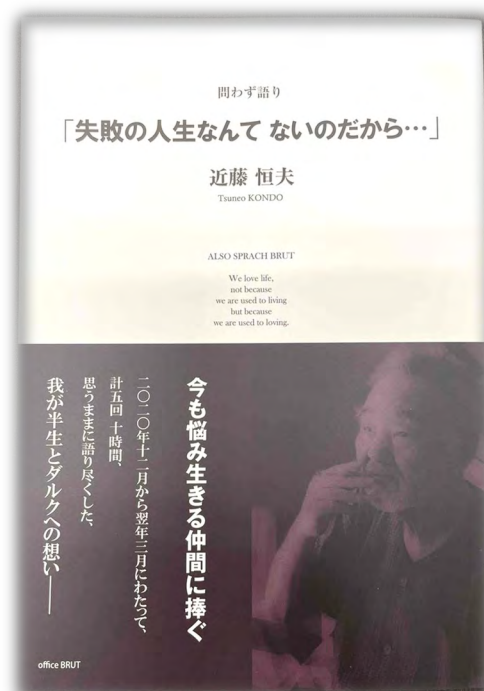
- 1 誕生
- 2 クスリの日々
- 3 リボーン
- 4 ダルク35年
- 5 回復のためには
- 6 ダルク・アカデミーについて

後語り

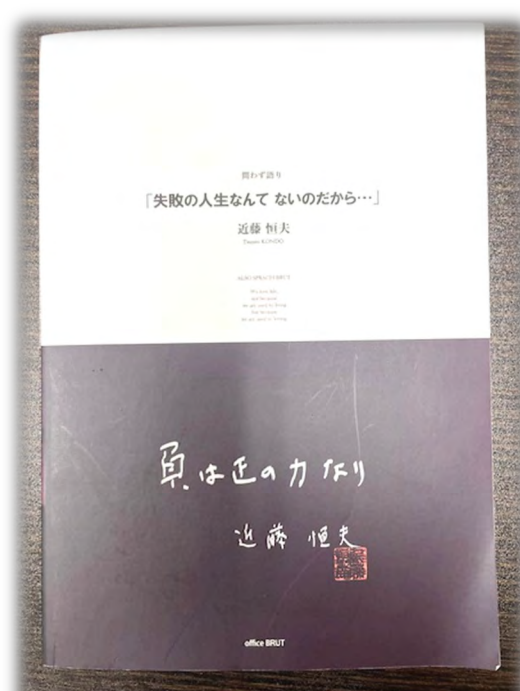
定価1,500円

ご希望の方はアパリと川崎ダルクで  
購入できます。

ネットでは販売しておりません。



今も悩み生きる仲間へ捧ぐ



負は正の力なり



藤岡ダルクの入寮者からのメッセージをお届けします！



仲間のリアルバースデー！



仏画プログラムの様子  
自分で色を作っています。



ブレインストーミングの  
プログラムの様子

## 藤岡ダルク 入寮者からのメッセージ

### 「やり直し」

ビリー

依存症のビリーです。薬物がこんなにも私の人生を左右し、私を悩ますものになるとは思いもしませんでした。思い起こせば恵まれた環境で私は育ちました。その環境は良いも悪いも、全てを揃えてくれました。悩みもありません、不安もありません、あるのは抱えきれない程の夢と希望しかありませんでした。

そんな私が初めて薬物を手にとったのは15歳の頃、大麻と覚醒剤でした。楽しくて、楽しくてたまりませんでした。とくに覚醒剤がもたらしてくれる多幸感、異常な意欲、凄まじい集中力、両手一杯に抱えた夢を叶えられると思い込みました。根拠のない達成感が私は何でもできると強く勘違いをさせました。私はその幻想を何の疑いもなく盲信しました。現実はどうだったのか？ 酷いものでした。快樂におぼれ、夢や希望など無いSEXと嘘ただそれだけでした。もうこんな非人間的に生きるのはごめんだ。薬物をやめるしかありません。馬鹿な私でもわかることでした。

私の回復は、2008年からはじまりました。現在2025年までに3度の入所を経験しています。施設では薬が止まり、仲間もでき、僕にとっては十分な回復をしていると思っていました。しかし、施設を出る度、使ってしまいます。この度、4度目のダルク生活の中で仲間のすぐ側でクリーンを作りながらその原因を探りました。辿り着いた答えは、至ってシンプルです。「勘違い」と「思い込み」と「まあいいか」というこの三点に尽きます。この1年間、仲間の息づかいを感じながら、沢山の仲間と関わりを持ちました。

中でも9月19日に行なわれたNAコンベンションです。ホスト側となった私たちは一致団結し、このコンベンションに臨みました。正直、疲れも皆ピークに達していました。だからこそ、言えた本音もあり、だからこそ、できた分かち合いが沢山ありました。藤岡ダルクのプログラムはとてもタイトで正直大変です。

しかし4度目のやり直し、50歳手前の私にとって熱量を持って一日一日クリーンを作ることはとても必要なことでした。分かったふりをせず、初心に帰り、仲間を頼る事、仲間はいつも無償の愛を私にくれました。仲間へ感謝です。今もこの感謝は私の回復の土台となっています。話は戻りますがコンベンションの前夜祭ではバンドのメンバーとして参加しました。

藤岡ダルクの音楽プログラムは先行く仲間が講師の先生として来ていて、楽器は無いものが無いと言っても良いくらい揃っていて、多くの仲間と一緒に演奏ができます。こんな曲をやろうとか、こうした方がいいんじゃないかとみんなで試行錯誤しました。演奏が上手く行かなければ講師の先生から怒られる、私も何度も怒られました。そんな白熱する場面もありながら一曲、一曲、みんなの曲になります。すべてオリジナル曲です。そして迎えた前夜祭の本番は本当に緊張しましたが、沢山のお客さんの前で最高の演奏ができたことは私の最高の思い出となりました。薬がなくてもこんなに楽しめて充実出来る事を仲間の中で再確認できました。仲間の中にいれば大丈夫！！仲間の中に居つづければクリーンでいれる！！プログラムをやり続けよう！！何とかなるさ！！そんな気持ちになりました。

コンベンションが終わればまた施設での日常に戻ります。私が一番苦手なエイサー琉球太鼓があります。正直ついて行く事で精一杯です。役割も大変なプログラムです。全てプログラムは大変です。ですが、仲間と一緒になら大丈夫だ。



今日一日仲間と共にこれをやっていけばきっと私はやり直せる、大丈夫だ！月日が経つのは早いものでそんな私も今年の11月には一年を迎えられる。抱えている問題は無くならないけどその隣には多くの仲間と積み重ねた希望が今はある。

苦手だったエイサーも3曲叩けるようになりました。人前で叩かせて貰えるようになりました。役割だって大変だと思わなくなりました。なら俺だってクリーンで生きていける。そう仲間と共に・・・やり直せるはず・・・いまはその気持ち一つです。



アナク22周年フォーラム  
エイサー

## 第24回薬物依存症者回復支援者(DARS)養成セミナー 日本版“薬物戦争”に立ち向かうー薬物問題の最前線ー

“薬物問題の最前線”を学び合う二日間の研修会を企画しました。  
現場の実践を共有し、制度や支援のあり方をともに考える時間にしたいと思います。

日時:2026年1月24日(土)13時～17時、25日(日)10時～18時  
場所:TKC研修センター(東京都新宿区揚場町2-1 軽子坂MNビル2F)

参加費: 一般 12,000円(2日間通し)2日目の昼食付 学割 6,000円(2日間通し)2日目の昼食付  
懇親会:4,000円 (24日18時～)

演題(仮)と講師

「アディクションとスティグマー隠さなくてよい社会へー」加藤 武士(一般社団法人 回復支援の会 代表理事)

「ハーム・リダクションの光と影」丸山 泰弘(立正大学法学部 教授)

「市販薬のオーバードーズの理解と対応ーダメと言わない支援のススメー」嶋根 卓也  
(国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 心理社会研究室長)

「司法制度と薬物事犯」石塚 伸一(一般社団法人刑事司法未来 代表理事)

「精神科医療と治療共同体」伊波 陽  
(特定非営利活動法人 Alima 訪問介護ステーションアンテリア 管理者看護師・保健師・公認心理師)

「ダルクの実践」岡崎 重人(川崎ダルク 代表理事)

主催:一般社団法人 刑事司法未来

※お申し込み方法の詳細は、後日あらためてご案内いたします。

専用の申込ページを開設予定ですので、公開まで少々お待ちください。

## ”AREA軽井沢より・献品ご協力をお願い”

施設長 針木 小太郎

いつも温かいご支援を頂きありがとうございます。

4月に13名で開所したAREA軽井沢も今や35名の大所帯となり、標高約1,000mの地にあること  
もあり、一足早く本格的な冬の装いになってまいりました。

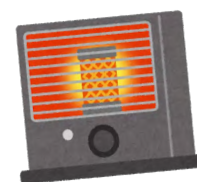
しかしながら予想よりも早い寒さの到来もあって、暖房器具の用意がまだまだ不足しております。  
つきましては皆様のご家庭にてご不用となった

- ①石油ファンヒーター ②ハロゲンヒーター、オイルヒーター等の暖房器具  
③布団、毛布等の寝具類 ④ダウンジャケット、スキーウェア等

がございましたらご提供いただけないでしょうか。

ご協力いただけます場合は下記住所へご郵送をお願いいたします。

住所:〒377-1412 群馬県吾妻郡長野原町北軽井沢2032-2172  
一般社団法人AREA AREA軽井沢 針木 宛 TEL:0279-82-1694





特定非営利活動法人  
アジア太平洋地域アディクション研究所

○アパリ東京本部  
〒162-0055  
東京都新宿区余丁町14-4  
AICビル1階  
電話：03-5925-8848  
FAX：03-5925-8984  
Email：info@apari.or.jp

○藤岡ダルク  
〒375-0047  
群馬県藤岡市上日野2594番地  
電話：0274-28-0311  
FAX：0274-28-0313  
○入寮費：月額13万円+生活費  
1日千円（初月のみ14.5万円）  
（税別）  
＊生活保護の方も可能  
○入寮条件：依存症から回復  
及び自立をしようとしている  
本人。男性のみ。  
○入寮期間：個人により差が  
あります。  
<https://fujiokadarc.com/>



2019年7月よりホームページが新しくなりました。ぜひご覧ください。

<https://apari.or.jp>

<https://www.facebook.com/AsiaPacificAddictionResearchInstitute/>

AsiaPacificAddictionResearchInstitute/

発行責任者：志立玲子  
2025年11月1日発行  
定価 1部 100円

## ＜司法サポートのご案内＞

《薬物事犯で逮捕された刑事被告人に対する支援》

薬物犯罪で逮捕されたら刑務所に行くか、再犯防止に向けた何の取り組みもないまま執行猶予の判決を受け、また薬物のある日常に戻るしかなかった日本において、初めて刑罰以外の再犯防止に向けた取り組みを2000年7月からしています。

保釈中の刑事被告人に対する薬物研修プログラム、情状証人出廷、上申書作成、入寮契約、身元引受契約、出所出迎え、法律相談などあらゆるニーズにお応えします。なお、アパリの司法サポートを利用された方の再犯率は10%以下です。保釈中のプログラムの提供、受刑中の身元引受、出所出迎えをしてリハビリ施設につなげるまでをコーディネートします。

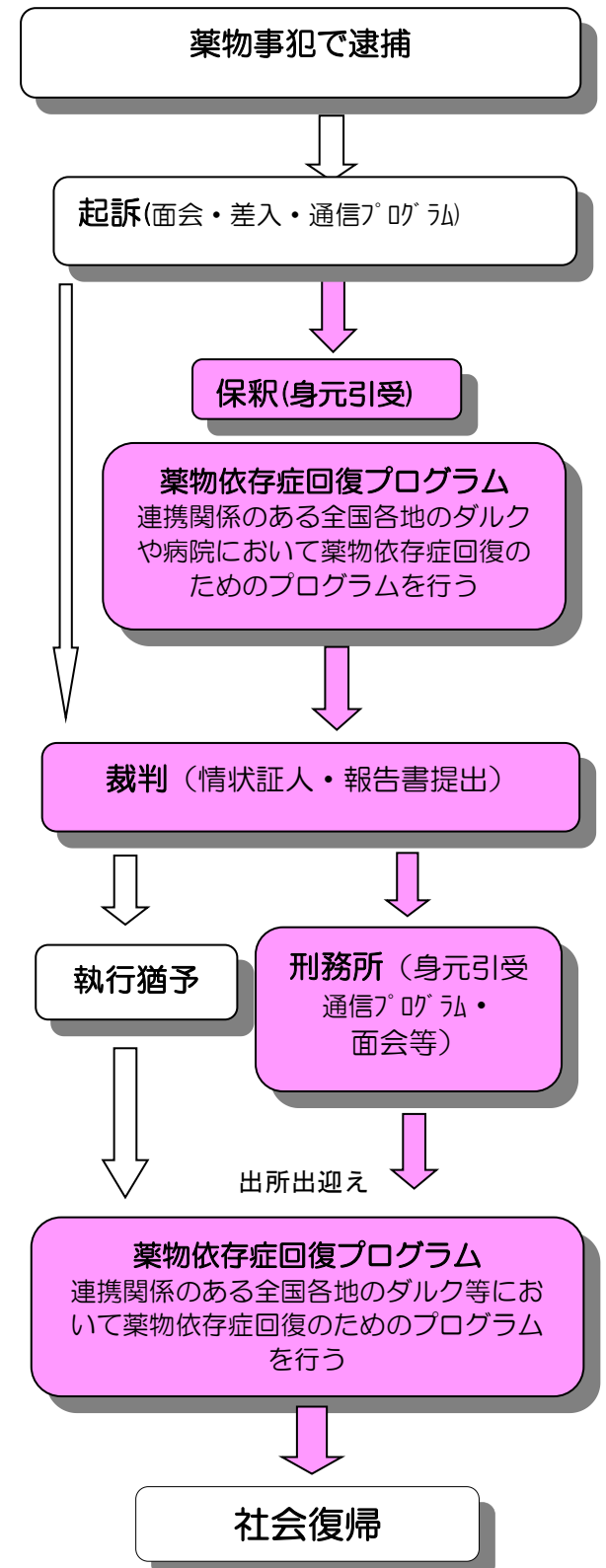
ギャンブルの問題が原因で逮捕された方の司法サポートも行っています。

[料金:コーディネート費用として20万円(税別)。  
交通費・宿泊費の実費が別途必要です]

窃盗、横領、詐欺等で逮捕されたご家族のご相談もお受けしています。

【お問合せは東京本部まで】

## アパリの支援



## ＜アパリ家族教室スケジュール・東京＞

第1月曜	連続講座	土曜	嗜癮行動家族教室
11/10(月) 13:30～ 18:30～	第4回 本人・家族の心の成長－ 自律心・自尊心を伸ばす関わり	11/8(土) 17:00～	第6回(新) 発達障がいと家族 ～アスペルガーとカサンドラ～
12/15(月) 16:00～	家族のためのクリスマス会 ゲスト:未定	12/13(土) 17:00～	第7回(新) 家族の回復とは
1/5(月) 13:30～ 18:30～	第5回 気持ちの回復: 家族自身の気持ちと本人の気持ち の両方を大事にする	1/10(土) 17:00～	第8回(新) まとめ
2/2(月) 13:30～ 18:30～	第6回 子どもの成長を助ける 関わりについて	2/14(土) 17:00～	第1回(新) 家族とは? ～家族システム～

【対象】ご家族、支援者等(本人は参加できません)

どちらも全8回の講座ですが、どの回からでも参加できます。

【場所】アパリ東京本部 【参加費】3,000円 (2名以上の場合は4,000円)

連続講座 講師:志立玲子(精神保健福祉士・公認心理師)

アシスタント:進藤俊明(青梅アライブ・精神保健福祉士)

嗜癮行動 講師:梅野充(アパリクリニック精神科医師)、志立玲子